

遂に来ました 横綱大関不在  
大相撲大阪場所鑑賞日記

既に何年か前から懸念されることとして、近い将来「横綱・大関がない番付」となる可能性が高いと指摘をしてきていたが、遂に現実のものに近づいてきた。

横綱照ノ富士が連続休場することになった時点では、マスコミは「貴景勝綱取り」で舞い上がっていたが、私の個人的な見方としては、「そんなことに浮かれている場合ではない」「綱取りどころか、怪我して休場の方が濃厚」というところだった。

これまで安定した6場所を過ごすことができなかった大関が横綱になったところで、意味があるのだろうか。よしんば好成績を上げたにしても、軽はずみに横綱に昇進させることは危険きわまりないことである。

横綱照ノ富士の休場はこれで終るかどうかわからない。かつてマスコミも相撲協会も稀勢の里を引退に追い込んだ史実もあり、照ノ富士にも毅然とした対処が必要な状況にある。このことを念頭に置く必要がある。

■ 序盤

さて場所が始まり、大関貴景勝は初日に翔猿の叩きに転がされて暗雲が出はじめ、4日目には阿炎の叩きにも屈してしまった。勝った相撲を見てもどことなく足の運びに円滑さが感じられず、気になったところだったが、中日を待たずに休場ということになってしまった。

後に続く三人の関脇の中では霧馬山の動きが光っていた。若隆景・豊昇龍は怪我の影響もあるのかもしれないが、自分の相撲の型が示せていない状況。

一方4人の小結は肩に力が入らずに、のびのびと相撲が取れている感じがした。

■ 中日の景色は

そんな流れを経て、中日が終わってみたら、トップを走るのは平幕の若手、しかも先頭集団の中に役力士は二人だけ。

中日	関脇	小結	平幕
全勝			翠富士
7勝1敗		大栄翔	
6勝2敗		琴ノ若	正代、遠藤、高安、金峰山

■ 9日目

翠富士と大栄翔の相撲は冴えていて崩れる気配はないが、2敗力士の中から正代と金峰山が3敗に後退。少しずつ振り落としが始まった。

9日目	小結	平幕
全勝		翠富士
8勝1敗	大栄翔	
7勝2敗	琴ノ若	遠藤、高安

翠富士は、のびのびと楽しむように相撲をとっており、しかも小さな体ながら正攻法で見ていると清々しい。

大栄翔の相撲には、自信を持って自分の相撲スタイルを貫いている力強さがある。

遠藤と高安が無気味な存在になってきたが、直接対決も出てくる後半戦でどんな展開になるだろうか。

■ 10日目

10日目	小結	平幕
全勝		翠富士
9勝1敗		
8勝2敗	琴ノ若、大栄翔	遠藤

サバイバルゲームのように一人ずつ落ちて行く。

新入幕の金峰山が高安を下し、2敗が一人脱落。

遠藤が正代をすくい投げで征して2敗を堅持。

翠富士は力強い相撲で翔猿を割り出して破り10連勝。

琴ノ若も阿炎を下して二敗を守ったのだが、結び前の一番で、

徐々に調子を取り戻してきた豊昇龍が大栄翔を破り、1敗力士はいなくなりました。

翠富士の独走状態になってしまったが、11日目からの取組では翠富士・遠藤は上位力士との割りが組まれる可能性が高い。さらに、この表の外になってしまった3敗力士の中には関脇の豊昇龍・霧馬山、小結の若元春、平幕で高安・金峰山・千代翔馬などが名を連ねており、まだまだ一波乱の可能性もないわけではない。

■ 11日目

サバイバルゲームは琴ノ若・北勝富士戦で始まった。琴ノ若は北勝富士の猛攻に転がされて3敗に後退。

全勝の翠富士は小結若元春と対戦。花道を入ってくる時から「緊張」の二文字が顔に表われている、引きつったような顔は、土俵際に腰を下ろしてからも変わらず、いつもの弥勒菩薩のような柔和な表情がうかがえなかった。軍配が返った後もぎこちない動きで、およそ無理だろうと察しが付くような肩すかしに入り、自滅。

続く土俵では、大栄翔が高安を撃破して2敗を堅持。

遠藤は結びの一番で、豊昇龍の回転するような切れ味の良い上手投げに転がされて3敗に後退。

11日目	関脇	小結	平幕
全勝			
10勝1敗			翠富士
9勝2敗		大栄翔	
8勝3敗	豊昇龍、霧馬山	若元春、琴ノ若	遠藤、千代翔馬

四強の一角が崩れて、翠富士・大栄翔が生き残ったのだが、後に続く3敗力士も鍵を握る存在となってきた。

## ■ 12日目

1敗一人・2敗一人・3敗六人のトップ集団に、さらなる篩(ふるい)がかけられた。

12日目	関脇	小結	平幕
11勝1敗			
10勝2敗		大栄翔	翠富士
9勝3敗	霧馬山	若元春、琴ノ若	

千代翔馬は隆の勝の小手投げに屈して脱落。大栄翔は力強い攻めで北勝富士を土俵外に突き出して2敗を守った。琴ノ若は力強い相撲で明生を破り3敗を堅持。そして、若元春と遠藤の3敗同士の対決は、

若元春の小手投げに凱歌が上がり、翠富士の土俵を迎えた。今日の相手は若隆景、星が上がっていないといえ東の関脇。今日もやや緊張気味の翠富士は、良いところなく上手出し投げで転がされてしまった。

これで、2敗二人・3敗三人の計五力士に絞られ、残り三日間の星のつぶし合いに入るようになった。

土俵上の動きを見た感じでは、力強い自分の相撲で走り続ける大栄翔と、冷静に正確に淡々と相撲をとり続ける霧馬山が印象に残った。

## ■ 13日目

小結が登場するところから結びの一番まで、賜杯の行方を左右する大事な取組が五番続いた。

大栄翔は何の迷いもなく、自分流の相撲で力強く明生を下して、トップの座を守った。続く若元春も技巧的にも評価に値する勝ち方で北勝富士に勝利。三番手の霧馬山は、遠藤の安定した腰の構えを崩し見事な技能相撲で圧勝。四番目の取組は翠富士対豊昇龍。過去の戦績では、豊昇龍の方が不利と見られていた。激しい攻防

13日目	関脇	小結	平幕
11勝2敗		大栄翔	
10勝3敗	霧馬山	若元春	翠富士

が続いた後、豊昇龍の粘り腰から繰り出す下手投げで結着がつき、翠富士は3敗に後退。

結びの一番では、体調不十分なせいか白星がなかなか続かない若隆景が、物言い・取り直しと苦戦の結果、

琴ノ若を征した。これでこの表から琴ノ若が消えて、大栄翔をトップとしたベスト4が並んだ。

## ■ 14日目

大栄翔と翠富士の直接対決が組まれた。昨日までと変わらない力強い相撲で大栄翔が圧勝した。

14日目	関脇	小結
12勝2敗		大栄翔
11勝3敗	霧馬山	

続く取組は霧馬山・若隆景戦だったが、昨日の一番で膝を痛めた若隆景が休場してしまい、霧馬山は難なく11勝3敗を獲得して残った。

結びの一番で、若元春は豊昇龍の切れ味の良い上手投げに転がされて敗退。結局千秋楽を前にして生き残ったのは関脇霧馬山と小結

大栄翔の二人となり、両者の直接対決により賜杯の行方が決まるという、興行的にも理想的な形になった。

## ■ さていよいよ千秋楽

満員の観客は結びの一番に焦点をあてて待っているかと思いきや……。

取組中盤の「千代翔馬・宇良戦」で大爆発。満場の歓声を力にして宇良が見事な勝利を収めて9勝6敗。

こんなに盛り上がってしまって結びの一番まで歓声を残しておけるのだろうかと危惧したが、三役そろい踏みで

再び盛り上がりが始まった。

ここまでの14日間の相撲を見ると、立ち合いの一步目の攻撃が決まれば大栄翔が有利なように、殆どの人が予想していたが、そうは行かなかった。大栄翔の相撲も全く悪くはなかったが、霧馬山の柔らかな体と軽い足腰の動きと粘りが大きく勝っていた。結果として大栄翔が土俵際で一腰下ろせなかったのが敗因となった。

優勝決定戦に持込まれたが、これまた同じような展開となり、しかも物言いまでつくという土俵際の攻防となったが、僅かな身のこなしの違いで霧馬山が勝利を得た。

両力士が自分の持ち味を出し合っただけの勝負が二番続き、千代翔馬・宇良戦以上の声援が響き、幕が下りた。

### ■ 三賞にひとこと

殊勲賞なし、技能賞は大栄翔・霧馬山、敢闘賞は金峰山ということになったが、優勝争いをここまで面白くしてくれた翠富士の名が出て来ないのは不思議な気がしたが、NHK解説の舞の海氏も同様の発言をしていた。

私ならどうするか？

殊勲賞=霧馬山 技能賞=大栄翔 敢闘賞=翠富士として、金峰山を敢闘賞の補欠に揚げたい。

### ■ 騒ぐなNHK

そしてまた騒々しい「大関昇進騒ぎ」が始まった。NHKの中継アナウンサーの発言だけを聞いていると、「大関昇進への足がかり」という発言が頻繁に発せられて、少々耳障りだった。

「もし優勝すれば大関昇進の足がかり」「二桁勝利に達すれば大関取りになる」などの、「たら・れば」の発言が場所の途中で何度も飛び交い、「大関を何人作ろうとしているのか？」と問いかけたくなるような騒ぎようだった。解説で登場する相撲協会の役員をしている親方の発言が、先場所あたりから少し変わってきた。

アナウンサーの発言に対して、「それは結果が出てからの話で、今は目の前の一番を大事にとっていくということ」とかわす親方が目立った。

関脇の地位でそれなりの成績を続けられるようになると「昇進に向けた気運」が出てくるのが普通であったのが、近頃は小結になった途端に騒ぎが始まり10勝でも上げようものなら大騒ぎになる。

霧馬山の成績・成果は素晴らしいと思うが、大関に続く序列の地位である関脇での実績はまだ緒に就いたばかりである。小結から陥落しなくなった、関脇としての実績を積み上げ始めた。関脇として安定した好成績を続けられるか三場所見続けよう、という見方が正しいのではないかと思う。優勝同点の大栄翔についても同じだ。

私見としては、霧馬山は安定した基本に忠実な技巧相撲なので、怪我さえしなければ今の流れで早晚昇進の可能性のある力士であるとは思っているが、大栄翔ともども静観を続けたいと思っている。

同様の視点で見れば、豊昇龍もここ数場所の推移を見続ける価値がありそうな力士だと言うことが出来る。

放送中継中にNHKアナウンサーが「大関取り」と口走った力士の過去6場所の成績を並べてみた。(下表)

場所	霧馬山	大栄翔	豊昇龍	若元春	琴ノ若	若隆景	優勝力士
2022-05	10-5 東前2	11-4 西小結	8-7 東小結	9-6 西前6	9-6 西前2	9-6 東関脇	照ノ富士 (横綱)
2022-07	8-7 東前1	6-7-2 休 西関脇	9-6 東小結	6-9 東前4	7-4-4 休 東前2	8-7 東関脇	逸ノ城 (前頭2)
2022-09	9-6 西小結	7-8 東関脇	8-7 西関脇	10-5 東前6	8-7 東前2	11-4 東関脇	玉鷲 (前頭3)
2022-11	8-7 西小結	7-8 西小結	11-4 西関脇	10-5 東前4	9-6 西前1	8-7 東関脇	阿炎 (前頭9)
2023-01	11-4 西小結	10-5 西前1	8-7 西関脇	9-6 西小結	8-7 西小結	9-6 東関脇	貴景勝 (大関)
今場所	12-3 東関脇	12-3 西小結	10-5 西関脇	11-4 東小結	9-6 西小結	7-7-1 休 東関脇	霧馬山 (関脇)

以上